

今週（9月30日から10月4日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

無担保コールO/N物は、引き続き資金調達ニーズの強い状況の中、9月30日(月)の取引が半期末跨ぎとなったため、例年通りビッドサイドの一部に調達を控える動きが見られた。そのため、一時的にレート水準が僅かに低下したものの、10月1日(火)以降は再び前週までと同様の展開に戻った。

無担保コールO/N物の加重平均レートは、上記の要因により9月30日(月)こそ0.225%に低下したが、10月1日(火)以降は再び上昇し、3日(木)まで0.227%の横這い推移となった。4日(金)もレート水準に大きな変化は無く、引き続き横這い圏での取引となった。

ターム物は、9月末に期日が到来した物を、改めて10月スタートのショートターム物で約定しようとする動きが散見された。

日銀当座預金残高は、30日(月)に短国の償還超過により549兆円台半ばまで増加して始まったものの、1日(火)の2年債発行超過、2日(水)の法人・消費税、年金保険料揚げにより541兆円台まで大きく減少した。その後は、3日(木)に国債買入オペによりやや増加したものの、4日(金)の5年債発行を受けて再び大きく減少した結果、540兆円程度での着地見込みとなった。

●レポ市場

今週のGC O/N物は0.23~0.25%近辺で推移した。

SC取引の個別銘柄では、2Y440~464回、5Y150~172回、10Y355~375回、20Y180~189回、30Y65~83回、40Y13~17回などで引合いが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、引き続き全ゾーン堅調に推移した。

4日(金)に行われた3M物入札は、事前予想に比べ強い結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは堅調に推移した。

●CP市場

今週のCP発行市場は、卸売、機械、石油等の業態で大型発行が見られた。

市場発行残高は、四半期末となった9月30日(月)に21兆円台後半まで減少したが、引き続きCPでの資金調達ニーズは根強く、期明け後は調達再開の動きから、週後半には23兆円台前半まで回復する展開となった。

発行レートは、引き続き0.25%以上で推移し、銘柄により投資家の運用目線にばらつきが見られた。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
9/30 (月)	37,919.55	0.850	142.65	0.225	0.238	5,494,300
10/1 (火)	38,651.97	0.850	144.05	0.227	0.239	5,465,600
10/2 (水)	37,808.76	0.815	143.88	0.227	0.230	5,415,600
10/3 (木)	38,552.06	0.860	147.02	0.227	0.234	5,426,700
10/4 (金)	38,635.62	0.880	146.68	0.227	0.240	5,400,500

来週（10月7日から10月11日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定	海外主要経済指標
10/7 (月)	9月のマネタリーベースと日本銀行の取引(日銀 8:50) 8月の景気動向指数速報(内閣府 14:00)		8月の米消費者信用残高
10/8 (火)	8月の全世帯家計調査(総務省 8:30) 8月の毎月勤労統計調査速報(厚生労働省 8:30) 8月の国際収支(財務省所管・日銀作成 8:50) 9月の景気ウォッチャー調査(内閣府)	30Y 9,000億円 10/9発行	8月の米貿易収支
10/9 (水)		TB6M 35,000億円 10/10発行	8月の米卸売売上高
10/10 (木)	日本金融学会において氷見野日銀副総裁講演 9月の企業物価指数(日銀 8:50) 8月の特定サービス産業動態統計速報(経済産業省 13:30)	5Y 23,000億円 10/11発行	9月の米消費者物価指数 9月の米財政収支
10/11 (金)	9月のマネーストック(日銀 8:50)	TB3M 43,000億円 10/15発行	9月の米生産者物価指数 10月のミシガン大消費者信頼感指数速報

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
10/7 (月)	400	4,900	5,300	国債補完	11,200		11,200	16,500	TB3M発行△46,000 償還52,000
10/8 (火)	1,000	1,000	2,000				0	2,000	
10/9 (水)	1,000	▲6,000	▲5,000				0	▲5,000	30Y発行△9,000
10/10 (木)	▲1,000	5,000	4,000				0	4,000	TB6M発行△35,000 償還40,000
10/11 (金)	▲1,000	▲21,000	▲22,000				0	▲22,000	5Y発行△23,000 交付税借入 △13,000 期日13,000
週間合計	400	▲16,100	▲15,700	—	11,200	0	11,200	▲4,500	

10/7は日銀予想、10/8以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

無担保コールO/N物は、引き続き邦銀業態の堅調な調達ニーズを背景に、レート水準は横這い圏での推移が見込まれる。債券レポGC T/N物のレート水準は、参加者のスタンスに大きな変化がなければ、0.23~0.25%程度の水準で推移することが見込まれる。短期市場は、9日(水)に6M物、11日(金)に3M物の入札実施が予定されている。CP市場は、特段大きなイベントはないものの、期明けの調達再開による案件がどの程度膨らむか注目される。

主要なイベントは、国内では8日(火)に8月の国際収支、10日(木)に9月の企業物価指数、海外では、10日(木)に9月の米消費者物価指数、11日(金)に9月の米生産者物価指数などが予定されている。

◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。

セントラル短資株式会社 登録金融機関関東財務局長（登金）第526号 日本証券業協会加入